

私の心を奪った画家

筑波大学附属小学校 五年 小林 稟

「え？もう12時間!？」
母が言うには、私はその間ずっと絵筆を握り、コンクールに出すための絵を描いていたらしい。自分の中ではあつという間だし、それでもまだ終わりは見えていない。私はさすがにそれはないだろうと思ひ、もう一度母に尋ねた。

「ねえ、本当に12時間も経ったの？」
母は私が作業に取りかかり始めた時間と現在の時間を教えてくれた。頭の中で引き算してみると確かに12時間が経過していた。当時から今でも工作や絵を描いていると、時間を忘れて没頭してしまう。そのせいで、週末は夜更かししてしまうこともあるほどだ。

そんな私の夢は、画家になること。なぜなら、物を作ることや、絵を描くことが幼稚園の頃から好きだったから。そして、私自身が昨年の夏にロンドンで忘れられない体験をしてしまったから。私はこれまでに、母と一緒にいるいろいろな美

術館で絵画を鑑賞してきた。多い時は、毎週末都内のどこかの美術館を訪れているので、一般的に名画と言われているものもそれなりに見てきたと思っている。しかしあの日、ロンドンで見た1枚の絵を前に、私は足がすくんだ。あんな経験は初めてだった。近くに展示されているゴッホやモネ、ルノワールといった有名な画家の傑作も視界から消え去り、周囲の喧騒も全く聞こえない。ただ1つの絵に魅せられ、身体中の全ての感覚を持つていかれてしまった。私は展示室から動けなくなり、少し離れた場所から全体を眺め、今度は可能な限り近付いて軽やかに繊細なタッチを堪能した。一体何をどうしたら描けるのか、見れば見るほど訳が分からない、自分でもこんなふうを描いてみたいと思うことができる気すらしない。圧倒的な存在感。異彩を放っていたこの絵は、私がこれまで見てきた絵画の中で一番好きな絵として、今でも不動の地位

を守っている。
画家は、自分の頭の中や心の内側を筆を通して表現する仕事。つまり、経験というインプットの量が多ければ多いほど作品としてアウトプットできるものが増えていくのだと聞いたことがある。だからこそ、毎日学校で学びたくさん体を動かすこと、友達との会話を楽しむこと、家での勉強、休日のお出かけや習いごと、そして画塾で腕を磨くこと。私にとって当たり前で些細な日々の積み重ねを疎かにしてはいけない。今、私が頑張っていることの全てが、いずれも自分の手で作り上げてく世界の素となると信じているから。

あの日、ロンドンで私の心を奪った絵は、レオナルド・ダ・ヴィンチ作「聖アロナと洗礼者ヨハネを伴う聖母子」。私もいつか、誰かの人生を変えてしまうような絵が描けるのだろうか。未来のことは分からないからこそ、ここに宣言しようと思う。私はレオナルド・ダ・ヴィンチみたいな画家になる。

夢の設計図

やりたい仕事や実現したい夢
画家
その仕事や夢を選んだ理由
絵画は目に見えない心の傷を治す効果があるから。絵が好きだから。

その仕事や夢を実現するために必要な条件(資格など)や力、お金はなんだろう
絵の技術・留学費用・塾代・学費・画材費用・体力・知力・色々な経験をする費用・美術展覧会鑑賞代・自分らしさ・自分の世界

年齢	必要な能力を身につけるためにやること
12才 小学校	色々な芸術に触れる・色々な絵に触れる・色々な経験をする・体力をつける・絵の技術を向上させる・英語の勉強をする
13才 中学校	美術部に入る・絵の技術を向上させる・英語の勉強をする・体力をつける・絵画コンクールに挑戦する・受験勉強をする
15才 中学校	美術部に入る・絵の技術を向上させる・英語の勉強をする・体力をつける・絵画コンクールで入賞する・受験勉強をする
16才 高校	美術部に入る・絵の技術を向上させる・英語の勉強をする・体力をつける・絵画コンクールで入賞する・受験勉強をする
18才 高校	美術部に入る・絵の技術を向上させる・英語の勉強をする・体力をつける・絵画コンクールで入賞する・受験勉強をする
19才 大学	美術系の大学に入学する・在学中にパリへ2年間留学する美術についてパリで学び創作活動を始める
22才 大学	帰国後大学を卒業
23才 仕事	画家生活スタート・家の近くにアトリエがある
45才 仕事	個展を開く
55才 仕事	有名な画家になる

仕事以外であなたが大人になったらやってみたいこと、実現したいこと
タワマンの15階に住む・犬・ねこを飼う・子ども3人(女の子2人、男の子1人)・毎とし10カ国旅行・年しゅう約一億円・色々な仕事(主に画家)

*こちらは、小学生『夢をかなえる』作文コンクールの「ライフプランシート」としても使えます。